

Ⅱ. ジャーナリズムプログラム

1. 設置の趣旨と教育の目的

本プログラムは、長谷川如是閑や杉村楚人冠といった日本の歴史に残る著名なジャーナリストを輩出した中央大学の伝統を継承しつつ、インターネット時代に対応し活躍できる記者、ドキュメンタリーや映画のディレクター・プロデューサー、アナウンサー・キャスター、広告業界のプランナーやクリエイティブ・ディレクター、出版業界の編集者などのほか、著作権や表現の自由などメディア関連法務に詳しい人材を育成することを目的としています。

中央大学は、1909年に新聞学科を設置しました。日本では、最も早くメディア・ジャーナリズム研究と人材育成に取り組んだ大学のうちの1つです。これまで、東大、早慶とともに、メディア業界に多数の人材を輩出してきました。しかし、1978年の多摩全面移転以降、大学における育成プログラムの消滅、OBOGとの関係希薄化によって、メディア業界へ進む学生の数は激減してしまいました。

このため、2003年に「FLP ジャーナリズムプログラム」を開設し、実践的な育成プログラムを展開してきました。その結果、本プログラムを受講した後、朝日・毎日・読売などの新聞社、共同・時事などの通信社、NHK・民放などの放送局、電通・博報堂などの広告代理店、講談社・集英社などの出版社に就職した学生数は100人以上に及んでおり、本プログラムは確実に実績を出し続けています。

2. 2023年度演習科目担当者および履修者数

連番	氏名	所属学部	FLP 演習A	FLP 演習B	FLP 演習C	総計	実施形態
1	松野 良一	国際情報	4	7	9	20	単独(A・B・C)
2	石山 智恵	国際情報	5	7	4	16	単独(A) 合併(B・C)
3	杉浦 信之	全学連携 教育機構	8	1	5	14	前期：単独(A) 合併(B・C) 後期：単独(A・B・C)
4	山崎 恒成	全学連携 教育機構	9	12	12	33	単独(A) 合併(B・C)
合 計			26	27	30	83	

3. プログラムスケジュール

- 5月 第1回部門授業担当者委員会
- 7月 ガイダンス（一年次生向け）
- 8月 第2回部門授業担当者委員会
- 11月 2024年度募集に伴う選考試験
- 12月 第3回部門授業担当者委員会
学内活動（期末成果報告会）
- 3月 FLP 修了発表
FLP 修了証書授与

4. プログラムの活動

期末成果報告会

実施日： 2023年12月9日（土）

実施場所： 中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 501 教室（ハイフレックス形式）

実施内容： 各ゼミによる年度活動報告

5. これまでの履修生の主な就職・進学先実績

日本放送協会（NHK）、日本テレビ放送網、テレビ朝日、TBS テレビ、テレビ東京、北海道文化放送、秋田テレビ、福島中央テレビ、信越放送、中部日本放送、中京テレビ放送、東海テレビ放送、富山テレビ放送、北陸放送、MBS 毎日放送、高知放送、TBS スパークル、日テレアックスオン、テレビ東京制作、共同テレビジョン、日本テレビ音楽、エフエム愛知、WOWOW、東北新社、IMAGICA、JCOM、沖縄ケーブルネットワーク、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、時事通信社、北海道新聞社、中日新聞社、中国新聞社、岐阜新聞社、京都新聞社、新潟日報社、小学館、講談社、集英社、文藝春秋、光文社、白泉社、ダイヤモンド社、有斐閣、NHK 出版、ベネッセコーポレーション、ぴあ、リクルート、電通、博報堂、ADK、読売広告社、東急エージェンシー、メトロエージェンシー、京王エージェンシー、電通テック、博報堂プロダクツ、PRAP JAPAN、サイバーエージェント、電通デジタル、ホリプロ、マイナビ、NTT 東日本、NTT データ、NTT ドコモ、KDDI、ヤフー、任天堂、ニフティ、三菱商事、三菱自動車、日本銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三菱東京 UFJ 銀行、日本政策金融公庫、東京海上日動火災保険、損害保険ジャパン日本興亜、ソニー損害保険、明治安田生命保険相互会社、野村総合研究所、アクセンチュア、デロイト トーマツコンサルティング、野村証券、富士通、リコー、キヤノン (Canon)、凸版印刷 (TOPPAN)、サントリー、アサヒビール、日本航空 (JAL)、全日本空輸 (ANA)、東日本旅客鉄道 (JR 東日本)、京王電鉄、小田急電鉄、オリエンタルランド、日本 IBM、サイボウズ、ファーストリテイリング、地方公務員（県庁・市役所など）、早稲田大学大学院、中央大学大学院（文学研究科、総合政策研究科）など

6. 演習教育活動

(1) 松野 良一 (国際情報学部・教授)

FLP演習A・B・C

<テーマ>

ドキュメンタリー制作およびノンフィクション執筆の実践

<授業の概要>

- ①ドキュメンタリー制作
- ②国内外取材プロジェクトの遂行とアウトプット
- ③『中央評論』のグラビア、特集、などへの執筆、出版活動

<活動内容>

多様な能力開発およびジャーナリストマインドの育成のために、実践的な活動を行った。主として、①実際にネット配信およびケーブルテレビで放送するための番組制作、②各種活字メディアへの執筆活動、を2本柱とした。

①番組制作については、「多摩探検隊」および「につぼん列島探検隊」用の5本を制作した。視聴世帯可能世帯数は、「につぼん列島探検隊」はイッツコム系列の約68万世帯である。「多摩探検隊」は2019年度からケーブルテレビ放送ではなく、ネット配信としている。

②「特攻と中央大学—記憶を後世に—」プロジェクト

太平洋戦争において特攻戦死した中央大学学徒の物語を調査によって可能な限り掘り起こし、書籍と映像作品を刊行することで中央大学の後輩たちに記憶をつないでいくことを目的とした新たなプロジェクト。2021年度に開始し、2022年度、2023年度と継続している。

- (1) 特攻戦死した中央大学学徒について防衛研究所、国会図書館などに保存されている戦闘詳報等の記録を総合的に調査（陸海軍別の正確な戦死者数の割り出しや個人に関わる記録の保存等）。
- (2) 全国の記念館、資料館や史跡などを調査し、特攻戦死した中央大学関係者の遺影、遺書、遺品等がどこにあり、どのように保存・展示されているかを明らかにすること。
- (3) 上記の活動によって収集した公式記録、遺族の証言、保存文書などから、可能な限り学徒の物語を掘り起こし、活字、映像メディア媒体を通じて歴史を伝承すること。

③執筆活動については、学内のメディアである『中央評論』に定期的にルポルタージュ4本を投稿し掲載された。

活動の詳細は、以下の通り。

1. 番組「多摩探検隊」制作

YouTube「多摩探検隊」サイトにて配信中

配信月	企画	D	番 P	進行状況
23 年 9 月	南西諸島の空から —ある特攻隊員の日記— (英語字幕版「Legacy of the Kamikaze Pilot (With English Subtitles)」も同時配信)	伊藤	伊藤・藤川・ 杉村・山崎	配信済み
9 月	帰国か残留か ～樺太残留邦人の決断～	森榮	杉村・山崎	配信済み
6 月	いのち輝くとき	江口		配信済み
5 月	勝つためにここにきた	荒尾		配信済み

2. 番組「にっぽん列島探検隊」制作

CATV「イツコム」にて放送中

放送月	番組回	使用 VTR	番 P
23 年 4 月	60 回	勝つためにここにきた	櫻井
5 月	〃	〃	〃
6 月	61 回	いのち輝くとき ～歴史に生きる日本人医師～	櫻井
7 月	〃	〃	〃
8 月	62 回	日本・イスラエル・パレスチナ 学生会議の記録	櫻井
9 月	〃	〃	〃
10 月	63 回	南西諸島の空から ～ある特攻隊員の日記～前編	櫻井
11 月	〃	〃	〃
12 月	64 回	南西諸島の空から ～ある特攻隊員の日記～後編	櫻井
24 年 1 月	〃	〃	〃
2 月	65 回	帰国か、残留か ～樺太残留邦人の決断～前編	宮下
3 月	〃	〃	〃

3. 歴史発掘・記録プロジェクト

活動日程	場所	内容	アウトプット
2021 年 5 月～	国立国会図書館 防衛省防衛研究所 戦史研究センター 知覧特攻平和会館 他	特攻戦死した中央 大学学徒に関わる 執筆、映像作品の 制作	特攻戦没者名簿の作成 遺品収集状況の作成 共同企画展「戦争を生きた 先輩たち～中央大学出身の 特攻隊員～」特別講演会での調査報告（2023 年 12 月） 制作した作品を配信予定

4. 執筆プロジェクト

中央評論グラビア

掲載時期	執筆者	内容
2023 年春号(323 号)	渡邊美咲	母と妹の遺体を焼いた少年 —富山大空襲の証言—
2023 年夏号(324 号)	新見優果	極秘の毒ガス製造 —大久野島を巡って—
2023 年秋号(325 号)	森榮爽	世界最速シニアランナー —60 歳からの挑戦、30 年間の継続—
2023 年冬号(326 号)	藤川なな帆	徳島・松茂町にある米兵供養碑の物語

5. コンテスト受賞歴について

作品	制作者	時間	内容	コンテスト名	賞	日時
南西諸島の空から —ある特攻隊員の日記—	伊藤光雪	40 分	中央大学は 140 年近い歴史を持ち、アジア・太平洋戦争でも多くの学徒が出陣し、確実に判明しているだけでも 70 人以上が特攻隊で戦死している。そうした先輩たちの記憶を残そうというプロジェクトの活動の中で、私は特攻隊で戦死したある先輩の 12 冊の日記を見つけた。中央大学専門部商科夜間部を繰り上げ卒業した富澤健児さんのものだ。平和な時代を生きる同じ大学の後輩として私は彼の人生に興味を持った。彼は、特攻命令をどう受け止めたのか。沖縄攻撃にどのような思いで向かって行ったのか。彼の日記を手掛かりに、富澤さんの 23 年間の人生を追った。	「地方の時代」映像祭 学生部門	優秀賞	11 月 18 日
				全国自作視聴覚教材コンクール（社会教育部門）	優秀賞	9 月 29 日

6. 松野ゼミについて取り上げた新聞記事・テレビ番組について

	掲載紙・番組	取り上げられた活動
10月27日	NHK 総合 首都圏ネットワーク	伊藤の取材・ゼミ活動の紹介
12月号	みんなの大学 vol. 31 (京王線・井の頭線沿線の大学情報誌)	ゼミ活動の紹介

10月27日「首都圏ネットワーク」で放送後に、NHK サイトに掲載
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231128/k10014270391000.html>



2023年11月28日 11時55分



中央大学 FLPジャーナリズムプログラム松野良一ゼミ

**卒業生の100人以上が
メディア業界で活躍中**

FLPとはFaculty-Linkage Programの略で、どの学部にも所属していても選択できる中大独自の教育プログラムです。FLP松野ゼミの活動内容は、①ケーブルテレビやネット配信向けの映像コンテンツ制作、②ノンフィクション作品の執筆・刊行の2つです。

映像コンテンツ制作は、企画、撮影、編集、パッケージ化のすべてを学生が担当。これまで、全国自作視聴覚教材コンクールで文部科学大臣賞2回受賞、「地方の時代」映像祭(NHK、民放連等主催)で17作品入賞(大学生部門最多)の実績をもちます。ゼミのYouTubeサイト「多摩探検隊」にぽんり島探検隊」のチャンネル登録者数は1万人を超え、435万回を超える視聴回数を記録しています。ノンフィクション執筆では、「戦争を生きた先輩たち」「証言で学ぶ沖縄問題」「台湾二二八事件と日本人」「日本全国829慰霊碑物語」「ベトナム戦争と日本人」「特攻と中央大学」などのプロジェクトを手掛け、すでに書籍4冊を刊行しています。卒業生は、NHK、民放、新聞・通信社、出版、広告などに就職し、すでに100人以上がメディア業界で活躍しています。

【優秀賞】
「地方の時代」映像祭(NHK、民放連等主催)で最優秀賞(2023年11月)。

【関心・含め先生】
中央大学 全学連携教育連携事務局
TEL:042-674-3663
URL: <https://www.chuo-u.ac.jp/gp/ftp/>

京王電鉄発行『みんなの大学』31巻に掲載

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B

実施日：2023年8月23日(水)

実施都市：広島県呉市

実施場所：第一術科学学校 教育参考館

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集および記録

成果：「特攻と中央大学」プロジェクトの一環として、執筆作品を制作予定

対象演習：C

実施日：2023年8月24日(木)～2023年8月25日(金)

実施都市：鹿児島県

実施場所：株式会社鹿児島放送

実施内容：ディレクターたちとの特攻隊員に関するドキュメンタリー制作の勉強会
成果：映像作品「南西諸島の空から」を上映

対象演習：A・B

実施日：2023年9月2日(土)～2023年9月4日(月)

実施都市：大分県宇佐市

実施場所：宇佐平和資料館・他

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集および記録
成果：「特攻と中央大学」プロジェクトの一環として、執筆作品を制作予定

対象演習：A

実施日：2023年9月14日(木)

実施都市：東京都世田谷区

実施場所：シモキタフロント

実施内容：街づくりとして設置されたシモキタまちピアノに関する情報収集
成果：映像作品「シモキタまちピアノ」を制作予定

対象演習：B・C

実施日：2023年10月7日(土)

実施都市：愛知県知多市

実施場所：大岩虎吉少尉のご遺族宅

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集および記録
成果：「特攻と中央大学」プロジェクトの一環として、執筆作品を制作予定

対象演習：B・C

実施日：2023年10月14日(土)～2023年10月15日(日)

実施都市：兵庫県加西市

実施場所：鶴野飛行場・他

実施内容：鶴野飛行場取材

成果：「特攻と中央大学」プロジェクトの研究発表

対象演習：A

実施日：2023年10月15日(日)～2023年10月16日(月)

実施都市：鹿児島県伊佐市

実施場所：時任正明少尉のご遺族宅

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集および記録
成果：「特攻と中央大学」プロジェクトの一環として、執筆作品を制作予定

対象演習：A

実施日：2023年11月5日(日)～2023年11月6日(月)

実施都市：北海道札幌市

実施場所：石田力雄少尉のご遺族宅

実施内容：特攻戦死した中央大学OBに関する資料収集および記録
成果：「特攻と中央大学」プロジェクトの一環として、執筆作品を制作予定

(2) 石山 智恵 (国際情報学部・兼任講師)

FLP 演習 A・B・C

<テーマ>

“パブリックスピーキング”のスキルと 社会を切り取る「視点」を身につける

<授業の概要>

本演習の最大の目的は、「パブリックスピーキング」のスキルを身につけ、大学生として、また社会人として、その技能を生かすことである。パブリックスピーキングにおいては、親しい仲間内の会話とは異なり、不特定多数の人に、わかりやすく、的確に情報を届けることが重要となる。“伝え手”は、「正しく、美しい日本語」の使い手であることが求められるほか、情報を、道筋を立てて、過不足なく伝える力を身につけることが大切となる。

本演習では、アナウンサーでさえ悩む、「誤読・誤用の多い言葉の読み方や使い方」を紹介し、正しい文法や知識について学ぶほか、腹式呼吸を使った発声法や母音の無声化・鼻濁音などを学び、パブリックスピーキングに必要な「正しいアクセントや口調」の習得を目指す。また、実際に放送で用いられるニュース原稿などを使った「読みの演習」のほか、制限時間を定めた自己 PR、「最近気になったこと」などのテーマについての発表を行い、「伝わる・響く」プレゼンテーションの力を養う。

また本演習では、“伝え手”に不可欠な、社会の現象や課題を独自に切り取る、「視点」の獲得を目指す。ニュースやリポートなどを視聴し、その背景にある事象を自ら調べ、考え、発表を行う。学生同士意見交換することで、多角的に物ごとを見る目も養う。また自身の視点で「ネタ」を探し、取材リサーチを行い、テレビリポートやラジオリポートを実際に制作し、発表までを行う。そのほか、社会の第一線で活躍するゲストスピーカーを招聘し未知の世界の動向への理解を深める。

演習 2 年目、3 年目の学年として、1 年目、2 年目よりさらにブラッシュアップされたスキルの獲得を目指す。

メディアなどの世界で欠かせない「パブリックスピーキング」の技能を習得し、表現力や洞察力を磨き、就職活動の面接はもちろん、その後の社会人生活の中でも活用してもらいたい。

<活動内容>

石山ゼミでは、主に放送などで用いられる「パブリックスピーキング」のスキルを、実践的な演習の中で身につけ、学生にとっての即戦力とするプログラムに取り組んだ。

履修生は、2 年生 5 名、3 年生 7 名、4 年生 4 名の計 16 名。前期は、発声や発音、アクセント、口調などのアナウンスの基礎を、テキストを使用し座学で学習した他、実際のニュース原稿を用いて、実践的なアナウンス技術の習得を行った。その他、「誤読や誤用が多い日本語」について、クイズ形式で回答、解説するなどした。自己表現力と、「わかりやすく伝える」技術を習得する実践では、300 字程度の自己 PR と、900 字程度のフリースピーチの執筆と発表に取り組んだ。そのほか、より豊かな表現力を磨くため、落語に挑戦したり、アナウンサー採用面接で実際に出題された、与えられた漢字一文字から自己 PR をする演習など、多角的なアプローチで、表現力強化を行った。

6 月 3 日には、外部講師を招き、特別講義を行なった。内容は、下記の通り。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B・C

実施日：2023 年 6 月 3 日(土)

講演者：中村 恵 氏 (特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会)

演 題：「真の国際人 緒方貞子の生き方」次世代を担う若者へのメッセージ
～UNHCR の人道支援活動～

実施施設：中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 401 教室

実施内容：日本人初・女性初の国連難民高等弁務官として、10年にわたり世界の難民のために尽力した緒方貞子さん。退任後の2年半、パーソナルアシスタントとして緒方さんをサポートし、ご自身も長年 UNHCR で難民支援に尽力された国連 UNHCR 協会の中村恵さんは、2021 年 2 月、緒方さんの生き方に学び、バトンを受け継ごうと、書籍『難民に希望の光を～真の国際人緒方貞子という生き方』（平凡社）を上梓された。UNHCR の職員として、退官後のパーソナルアシスタントとして、比類なきリーダーとしての緒方さんを見つめ、その強みや、緒方さんのような真の国際人になるためにはどうしたら良いのかを考え続けてきたという中村さんから、UNHCR の人道支援活動とはどういうものかを伺い、次世代を担う若者へのメッセージを頂いた。

成 果：ウクライナをはじめ、世界各地で起きている人道危機により、故郷を追われた人の数が1億人を超える中、国連 UNHCR が行なっている「難民救援活動」とはどのようなものか、その歴史、定義、中村さんのミャンマーでの実体験を交えて詳しく解説頂き、理解を深めることができた。日本人かつ女性で初めて、国連難民高等弁務官として活躍した緒方貞子さんの足跡をたどり、その生き様に触れることで、学生たちは多くのメッセージを受け取った。受講生は、それらをレポートにまとめた。

夏休み期間にあたる 8 月 1 日～3 日には、本ゼミでは初となる「学外演習」を行なった。詳細は以下の通り。

対象演習：A・B

実 施 日：2023 年 8 月 1 日(火)～2023 年 8 月 3 日(木)

実施都市：広島県広島市

実施場所：広島平和記念資料館・他

実施内容：同年 5 月に G7 広島サミットが開催され、改めて世界から注目を集めた世界唯一の被爆国日本の広島。核のない世界に向けて、広島市民はどのような思いを新たにしたのか。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続く中、高齢となった被爆経験者の方々はどんなメッセージを訴えようとしているのか。初めて広島を訪れた学生も多い中、自分たちの視点、感性で、精力的に取材した。

10 人の参加者が 3 班に分かれて取材。テーマは、下記の通り。

①「G7 開催で世界から注目を集めた広島からのメッセージ」

～広島平和記念公園に残る原爆の爪痕広島ピースボランティアの平和への訴え

②「原爆の悲惨さ、経験を語り継ぐ 原爆被爆者の栗本勝子さんのメッセージ」

③「世界平和への贈り物」

～サミット参加首脳たちに送られた伝統漆器に込めた思い漆芸家高山尚也さん
事前に、リサーチ・取材を行い、テーマを絞り込んだ。どんな視点で取材を進めるか、どんなメッセージを引き出したいのか、それを伝えるためには、どのような映像取材が必要かなど、班ごとに話し合い、想定構成を作成。現地での取材に挑んだ。帰京後は、班ごとに、取材してきた素材を吟味し、映像編集・コメント作成を進め、ナレーションも自分たちで収録。最終的には、完成した 3 つのレポートを、「中央大学ニュース 広島特集」と題したニュース番組にまとめた。その際、番組オープニング、各レポートへと繋ぐ前後説なども自分たちで考え、市ヶ谷田町キャンパス 11 階スタジオで収録した。

成 果：石山ゼミにとって初めての学外演習となったが、参加学生たちからは、「貴重な経験を積むことができた」「来年度も行い、さらに内容を充実させたい」といった意見が多く聞かれた。テーマや行き先を決定する過程では、各自、リサーチに基づく企画書を作成、発表した。「首里城が消失した沖縄の経済の課題」「次の NHK 大河ドラマの舞台となる京都・宇治の観光活性化策について」など、多

様々な企画提案があった中、学生同士議論し、より学習効果が期待できるテーマとして広島企画を採択。結果、学生からは、「原爆被爆経験者の口から語られる平和への想いは深く印象に残った。ロシアのウクライナ侵攻について伺った際、『できることならロシアに行ってプーチンを暗殺したい』と涙を流し震えながら話していた姿は今でも忘れられない。一瞬にしてすべてを失った辛い経験をした方が語る言葉から、平和とは何か、今当たり前に普通の暮らしができている日常について考えさせられるきっかけとなった」などの感想が聞かれた。また、現場で、取材、カメラ撮影し、編集してニュース番組にまとめる、というテレビ制作の経験を積むことができたことに手応えを感じた学生が多かった。2024年度も、さらに内容を充実させた学外活動に取り組みたいと、意欲が高まった。



11月25日（土）には、今年度2度目の特別講演を開催。詳細は下記の通り。

対象演習：A・B・C

実施日：2023年11月25日（土）

講演者：鵜飼 俊介 氏（NHK 日本放送協会 人事局）

演 題：届いた先の未来が変わる？公共メディアの仕事

実施施設：中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 401 教室

実施内容：鵜飼氏は、NHK のディレクター・プロデューサーとして、朝の情報番組『あさイチ』の立ち上げから関わってこられた。番組の作られ方や制作裏話を通して放送局の仕事や目指すこととお話し頂き、同時に、求める人材や最新採用情報についても伺った。学生からの多くの質問にもお答え頂いた。

成 果：当ゼミには、卒業後の進路に、放送局などメディアを希望する学生も多い。公共放送でもある NHK で、数々の番組制作に携わってこられた鵜飼氏に、ネットの普及で大きな変化の時代を迎えている放送局の仕事の現状、目指す未来像について伺うことは、学生にとって大きな視座を得る経験となった。また、採用担当者でもある鵜飼氏の最新採用情報は、就職活動に挑む学生たちにとって具体的かつ貴重な情報となった。講演後の感想レポートでは、「今回鵜飼さんのお話を伺ったことで、自分がなぜこれほどテレビにこだわっているのか、テレビ局に就職して何を成し遂げたいのかを改めて考えることが出来たため、残り一年自己分析を徹底的に行いながら、企業の求める人材にどの観点で自分がマッチ出来るのかをきちんと見極めて全力で頑張ろうと気が引き締まった」といった言葉があった。

そのほか、12月には、銀杏並木が色づいた神宮外苑にて、中継リポート演習も行った。



石山ゼミ2年目の今年度は、パブリックスピーキングや表現力向上に向けた演習のみならず、自ら、“伝えたいテーマ”を見つけ出し、現場で取材し、テレビリポートにまとめる経験を積むことができた。学生からは、「アナウンス技術の向上をはかりたい」「映像編集技術をもっと身につけたい」「来年度も学外演習を行い、現場取材の経験を積みたい」といった声が上がっている。2024年度は、そうした学生たちの要望にも応えながら、新2年生を迎え、さらに精力的に活動していきたいと考えている。NHK 放送コンクールに、ゼミとして取り組み、出場することも計画している。

(3) 杉浦 信之 (全学連携教育機構・客員教授)

FLP演習A・B・C

<テーマ>

【A生】

新聞等の既存メディアからネットメディアまでマスメディアの全体状況を理解し、事実を正確に伝える文章力を身につける

【B生】

ゼミAで学んだメディア状況を踏まえ、各メディアの特性とジャーナリズムの課題を考える。文章作成では対立軸のあるテーマで説得力ある文章を作成するための実践

【C生】

ゼミA・Bで学んだメディア状況を踏まえ、メディアの公共性・公器性と企業性の両立についての課題を考える。

<授業の概要>

【A生】

①課題作文の講評②日々の様々な報道記事の分析・討論③報道媒体の歴史と現在についての講義の3本柱。①については、事実文の書き方に始まり、題材や語彙も含めて文章作成の基礎を学び、相互に講評も行います②は授業直近のトピック的な報道を取り上げ、その内容を分析・討議することで、どのように取材したのか、なぜそれが報道に値するのかを考えます③は現在のデジタル時代のメディアを、その前史からたどることにより、現在のメディア状況と影響力や問題点を考えます。

【B生】

①課題作文の講評②対立軸のある問題に関する時事報道の分析・討論③報道とジャーナリズムの講義の3本柱。①は賛否の分かれるテーマ、解決策の難しいテーマなどで独自の説得力ある文章に挑戦します。②は論点のあるテーマに関する報道を複数の媒体から取り上げ、その根拠や背景を分析・討議します。③は事実報道（客観報道）と論説や社説などメディアの役割について考えます。

【C生】

①課題作文の講評②時事報道の分析・討論③報道とジャーナリズムの講義。これまでのゼミでの演習を踏まえ、総合的な演習を行う。

<活動内容>

【A生】

前期は①「時事報道の分析・議論」②「デジタル時代のメディア」の二つを柱に講義と分析を進めました。「時事報道の分析・議論」では、岸田首相襲撃事件、ジャニーズ事務所報道などを毎回取り上げ、報道の意味や課題などを議論しました。「デジタル時代のメディア」では、SNSと世論、プラットフォームとデジタル広告など、デジタル時代のメディアの現状と問題点を議論しました。

後期は、デジタル時代の報道に関する問題点を、テーマやジャンル別に学生が調べて発表する形式で行いました。テーマとしては、フェイクニュース・捏造と誤報などのほか、ジャンル別の報道の分析と発表では、政治報道、事件報道、スポーツ報道、芸能報道などの特徴と課題を考察しました。

【B・C生】

前期と後期を通じて、あらかじめ提示されたテーマをもとに、毎回800字の作文を提出、それを講師が添削、講評しました。「終電」「涙」「防犯カメラ」「砂」「小惑星」「習慣」「カピバラ」「コンクリート」「血管」などのテーマについて、学生自身がタイトルを考え、全員の添削を参照しながら、テーマからの発展の仕方や日本語作成の基礎などを学びました。最終授業では記者会見の動画を視聴しての作文にも挑戦しました。

前期は「報道とジャーナリズム」を中心に、客観報道と論説、新聞と社説、メディアの権力

監視、アンバーサリージャーナリズム、憲法改正とジャーナリズム、ジェンダー問題とジャーナリズムなどを取り上げ、とくにデジタル時代のメディアに特徴的な課題について議論しました。

後期は「ジャーナリズムのジレンマ」をテーマに、実際にあった報道をめぐるトラブルの事例を参照した後、メディアや取材の現場の問題について、ゼミ生が与えられた論点を中心に発表を行いました。講義・発表の主な論点は「原発事故が起きたら記者を退避させるべきか」「犯罪報道の実名報道は必要なのか」「オフレコ取材をどう考えるか」などで、正解のないジャーナリズムの現場に立った場合、「自分ならどうするか」という観点で議論を行いました。

前期と後期を通じて、時事的なテーマを毎週、事前に提示して、それをもとに 800 字の作文を作成・提出して添削後の指導を行いました。主なテーマは「AI」「無投票当選」「外国人労働者」「リスクリング」「カスハラ」「親ガチャ」「トー横」「都市鉱山」「戦車」などで、現実のメディアでも取り上げられている論点も参照しながら、自分の考えをまとめる力を高めることに注力しました。

学外活動

<メディア特別講演会> (計 5 回)

対象演習：A・B・C

実施日：2023 年 6 月 6 日(火)、6 月 27 日(火)、10 月 10 日(火)、10 月 31 日(火)、
2024 年 1 月 16 日(火)

実施場所：中央大学 多摩キャンパス

実施内容：読売新聞社、日本経済新聞社、朝日新聞社、共同通信社、NHK の 5 つのメディアの現役社員による特別講演会 (ZOOM 参加含む) を実施。ゼミ生以外の参加も認めた。

成果：記者の日常や報道の現場、ネットへの進出状況などを含めて主要メディアの実情についての具体的な説明を受けるとともに、ゼミ生やゼミ生以外を含めての質疑応答も交えた活発なやり取りがあり、業態の違うメディアについての理解を深めた。



読売新聞社の特別講演会

<実態調査>

対象演習：A・B・C

実施日：2023 年 8 月 22 日(火)

実施都市：長野県長野市

実施場所：信濃毎日新聞社

実施内容：信濃毎日新聞社を訪問し、編集局の見学を含め、地方新聞の現状について説明を受けた。

成 果：新聞編集局の現場を視察するという体験を得たことに加え、地方新聞の持つ役割を理解することもできた。

<見学調査・体験>

対象演習：A・B

実 施 日：2023 年 10 月 2 日(月)

実施都市：東京都港区

実施場所：ラジオ NIKKEI

実施内容：ラジオ NIKKEI の POD キャスト番組にゼミ生 5 人が同社スタジオを見学し、キャスターとのやり取りを収録。

成 果：虎ノ門のラジオ NIKKEI のスタジオに実際に入り、ラジオ番組収録の現場を体験できた。

<実態調査・特別講演>

対象演習：A・B・C

実 施 日：2023 年 8 月 21 日(月)

講 演 者：原 昭己 氏（もうひとつの歴史館・松代）

演 題：松代大本営 象山地下壕とは何か

実施都市：長野県長野市

実施施設：旧松代大本営 象山地下壕

実施内容：かつて「軍都」であった多摩にある中央大学の学生として、戦争遺跡を自分たちの目で見て資料や文章を残していくことを目指し、多摩とも関係の深い「旧松代大本営 象山地下壕」を見学。現地ガイドの原昭己氏から同施設の歴史の意味や現状について説明を受けた。

成 果：太平洋戦争末期に首都圏が敵に攻撃されることを想定して、作られた地下軍事施設群で、陸軍の大本営や中央官庁、NHK の放送施設も移す計画だった。また、天皇御座所も移設する計画があったことなどの歴史を俯瞰して、戦争とメディアについて理解を含めた。



旧松代大本営 象山地下壕の見学風景

<見学調査>

対象演習：A・B・C

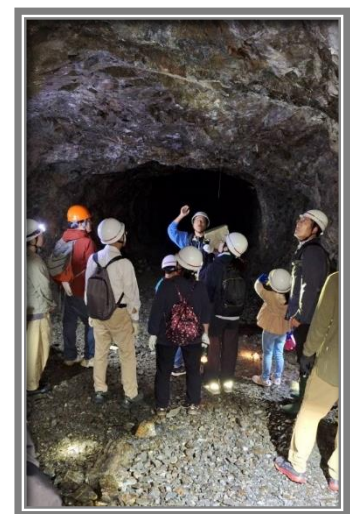
実 施 日：2023 年 10 月 29 日(日)

実施都市：東京都八王子市

実施場所：旧陸軍浅川地下壕

実施内容：太平洋戦争末期に完成していたら全長 10 km にもなる戦闘エンジンの工場を兼ねた地下壕になるはずだった浅川地下壕の視察。

成 果：8 月に見学調査した旧松代大本営の前に計画された浅川地下壕も見学調査し、共に現代に残る日本の戦争遺跡を生で見ることにより、戦争の記録と記憶を保存することの重要性を体感した。



旧陸軍浅川地下壕の視察風景

(4) 山崎 恆成 (全学連携教育機構・客員教授)

FLP演習A

<テーマ>

- ①映像リテラシー
- ②ジャーナリズムとドラマ
- ③テレビとSNS

<授業の概要>

①映像表現を個々に説明するやり方もあるが、このゼミでは、1つの作品(ストーリー)の中でどんな映像表現がどのように使われているかを分析することで、映像表現を身に着けます。

英語の学習に「英文法」「英作文」「英文読解」とあるとすれば、「英文読解」にあたると考えてください。

そして、脚本作成と実際の映像(ドラマ)制作にも取り組みますが、これは、「英作文」に相当します。

②優れた映像(ドラマ)作品は、ジャーナリスティックな感覚と時代性に富んでいます。ジャーナリズムを題材にした映像作品を分析して、「今の時代」をどうつかむかの感覚を磨きたいと思います。

また、ドラマとは、「葛藤」と言われます。ジャーナリストは「葛藤」しながら報道しています。つまり、ジャーナリズムの中にドラマがあるということもできます。その「葛藤」も解き明かします。

③SNSの時代ですが、テレビは力を持ち続けています。今後のメディアの共生について考察します。

<活動内容>

今年度、山崎ゼミは、撮ること、表現することに軸足を移し、攻めていこうと考えた。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B・C

実施日：2023年6月12日(月)～2023年6月20日(火)

実施都市：ハンブルク(ドイツ)

実施場所：Metropolis・他

実施内容：ハンブルク研修

①ハンブルク日本映画祭に参加

14日のレセプションでは、最初に映画にノミネートされている映画監督たちが舞台に登壇し、参加者紹介が行われた。舞台の上から見ると想像以上に現地の方を含め多くの観客がいた。開会式後は、去年の最優秀賞を受賞した監督がこの映画祭のために撮影した映画が上映された。

15日には私たちの作品である「お母さんの涙」が3001kinoという映画館で上映された。映画に対する観客の反応もとてもよく、ところどころで笑いが起き、楽しんで見ていただけたと思う。上映後、舞台の上で質疑応答が行われた。映画に関することから私たちのゼミの活動内容について、また将来のことや次の作品についてなど多くの方から幅広い内容の質問をいただいた。多くの方が作品や私たちに興味を持ってくれたということがとても誇らしく、嬉しく感じた。



18日の最終日には受賞作品の発表があった。審査委員長が代表して受賞した作品の理由の述べているときに話の内容もあるが、それよりも技術面で評価されて受賞した作品が多いと感じた。このことからストーリーも大事であるが技術面を高めていく必要があると学んだ。

この映画祭を通じてドイツの人は日本人の映画監督に対して心に訴えかけるような作品ではなく、流血や暴力のシーンが多い残虐でグロテスクな作品を求めていることが分かった。その影響で映画祭にノミネートされている作品もドイツ人の好みに合った作品が多かった。私たちの作品は残念ながら受賞することはできなかったがとても貴重な体験をすることができた。



②NDR(北ドイツ放送局)訪問

6月14日に私たちはNDRに訪問した。NDRはハンブルクに拠点を置くドイツの公共放送局であり、東京にもスタジオを置いている。ここでは大きく分けて2つの体験をした。



まず1つ目はNDR内の見学だ。関係者の方を筆頭にスタジオや照明・音声などに関係する部屋を見学させていただいた。多くの機材が自動化されており、最先端の設備を見ることができた。その中でも特に印象的だったのがカメラだ。実際に操作する機会をいただき、カメラを扱うむずかしさや多く備わった機能を肌で感じる事ができた。カメラは日本の企業であるFUJIFILMのものが使われており、とても親近感を感じた。ニュース番組のスタジオや視聴者参加型番組のスタジオ、音楽番組のスタジオなど用途に合った様々なスタジオの見学は普段なかなか体験することができないため、新鮮で勉強になった。

2つ目はクラウド・シェーラー氏とのディスカッションだ。ここではクラウド氏が制作し、国際的な賞を受賞した「Tuna On Tour」と「The Untold Story Of Otto Warmbier」についての制作秘話やドキュメンタリーを制作する上で心がけていた点を伺った。視聴者の興味を引くために、ものが動かなければカメラを動かし、ものが動くならカメラは動かさないことが大切であることを学んだ。また、あらかじめプランを立てていくが、取材現場でより良いものを見つけたらフレキシブルに乗り換えていき、大きいストーリーと小さいストーリーを組み合わせていくことが素晴らしい作品を作り出す秘訣だと知った。最後には、TVを使って見ることが全てではなく、時代に合わせて共有のしやすいオンラインに対応していくべきであると述べていた。

これらを通してジャーナリズムのあり方について改めて見つめ直す機会となり、また、よりジャーナリズムについて興味を持つきっかけともなった。多くの人や設備が使われていることに加え、ひとつひとつのシーンに様々な工夫が込められていることで普段私たちが見ている番組が作り上げられていることを理解した。



③DIE ZEIT 訪問

6月16日、私たちはハンブルクに拠点を置く新聞社DIE ZEITを訪問した。実際に使用されている会議室を見学しつつ、通された部屋で私たちはフィッシュマンさんにお話を伺った。

DIE ZEITは他社の業績が下火になりつつある中で、売上を伸ばし続けている。その主な要因として「読者のターゲット」「他業界進出」「紙面の面白さ」の3点がある。

まず、DIE ZEITはターゲットを「若者のコアな新聞好き」にしている。多くの新聞社が幅広い層が楽しめるようにしている中で、かなり限定的なターゲット層である。しかし、ターゲットを絞ることにより彼らの欲しいモノにピンポイントで供給できるため、ファンにして読者を離さない、より長期的な成果の見込める戦略であるといえる。



また、若者をターゲットにしていることから、紙での刊行は週1回、オンラインコンテンツであるZEIT ONLINEで最新情報を掲載している。紙での刊行はインターネットが普及する今では速報性に欠けるため、刻一刻と変化していく政治や金融のニュースはオンラインの方が向いている。

媒体によって流すニュースの種類を変える、効果的な側面が見えた。

次に、DIE ZEIT社は優秀なマーケターたちによって、非常に優れた他業界への進出を行っている。たとえば、旅行代理店として新聞記者が世界中を飛び回って得た面白い情報をもとにツアーを実施したり、新聞記者だからこそできる少し踏み込んだトークショーを実施したり、新聞社であることを売り出すことができるセンスのいい事業を行っている。DIE ZEITのファンたちはまさにこのような面白い企画を求めており、ここでもファンへの貢献をいかに大切にしているかを感じられる。

「紙面の面白さ」について、DIE ZEITはサイエンスからライフスタイルまで、幅広いジャンルの記事が掲載されている。また、DIE ZEITの論説員は右翼と左翼両方いることが特徴的であり、新聞紙面は論争の場であるとして、政治面では過激な論争が日々行われている。そして、DIE ZEITのこだわりは紙面のヴィジュアルに特に見受けられる。美しい写真が使用され、読みやすいレイアウトになっており、読者に手に取りたいと思わせる紙面になっている。



これは週1回の刊行だからこそこだわられる部分であり、日刊が主な日本の新聞にはあまり見られないこだわりであり、興味深かった。

訪問を通して、私たちは日本の新聞とドイツの新聞の違い、新聞社がこれからも生き残るための戦略など、多くのことを学んだ。

成果：海外のクリエイターと直に接することで大変な刺激を得た。ドイツのテレビ局と新聞社の持つポジティブな面と負の面を体感することができ、日本のメディアが目指すべきものを考える大きなヒントとなった。

対象演習：A・B・C

実施日：2023年7月15日(土)

実施都市：東京都港区

実施場所：TBS AKASAKA BLITZ STUDIO

実施内容：7月15日、TBS テレビで音楽特番「音楽の日」が生放送されるのに合わせ、東京・赤坂にあるTBS社屋の見学が敢行された。

当日は、朝の生放送番組「王様のブランチ」のスタジオと調整室の見学、「音楽の日」のリハーサル現場を見学した。これまでドラマの収録現場を見学したことはあったものの、1分1秒の世界で勝負する生放送の現場を目の当たりにするのは初めての経験で、その緊張感に圧倒された。特に、「音楽の日」に関しては8時間の生放送であり、社内全体が忙しく動き回っているような印象を受けた。

成 果：ゼミ生の中には就職先としてテレビ業界を希望している学生も多く、今回は一般の就職活動では体感できないテレビ局の雰囲気を感じる貴重な機会となった。それと同時に、普段何気なく目にしているテレビの生放送の舞台裏を見学したことによって、番組を見る視点が少し変わるような経験を得ることができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2023年8月25日(金)

実施場所：中央大学 後楽園キャンパス

実施内容：ドラマ制作のための俳優のオーディション

成 果：本格的なオーディションを行った。俳優の演技力や表現力のみに着目するのではなく、役柄の深層心理や背景についての理解、俳優たちの相互作用を考慮するなどの多角的視点を持ち、俳優を選出する経験ができた。

対象演習：A・B

実施日：2023年9月17日(日)

実施都市：東京都多摩市

実施場所：ドラマ撮影会場

実施内容：ドラマ撮影

成 果：撮影を通じて、演出やカメラワークなど授業でインプットしたことをアウトプットすることで、理論と実践の間の繋がりを深めることができ、ゼミ生が大きな経験を積んだ。スケジュールがタイトであったり、予期せぬアクシデントが発生したりする中で、柔軟に問題に対処するチームワークが見られた。ゼミ生全体が大きく成長する良い機会となった。

対象演習：A

実施日：2023年12月9日(土)～2023年12月22日(金)

実施都市：東京都八王子市・他

実施場所：八王子駅、渋谷駅、新宿駅、上野駅・他

実施内容：上記のさまざまな場所で「2023年はあなたにとってどんな年でしたか？」

「2024年をどういう年にしたいですか？」という質問の街頭インタビューを行った。

成 果：街頭インタビューをドキュメンタリー作品として全てのチームが作り上げることができた。出演に承諾する人が少ないなど、実際に現場に足を運び、撮影を行ったからこそその発見が多くあった。完成した作品を批評し、改善点や課題点を洗い出した。インタビュアーが話を膨らませきれていない点や、出演者とのコミュニケーションの重要性などの意見が挙がった。

FLP演習B・C

<テーマ>

- ①映像リテラシー
- ②ジャーナリズムとドラマ
- ③テレビとSNS

<授業の概要>

①映像表現を個々に説明するやり方もあるが、このゼミでは、1つの作品（ストーリー）の中でどんな映像表現がどのように使われているかを分析することで、映像表現を身に着けます。

英語の学習に「英文法」「英作文」「英文読解」とあるとすれば、「英文読解」にあたると考えてください。

そして、脚本作成と実際の映像（ドラマ）制作にも取り組みますが、これは、「英作文」に相当します。

②優れた映像（ドラマ）作品は、ジャーナリスティックな感覚と時代性に富んでいます。ジャーナリズムを題材にした映像作品を分析して、「今の時代」をどうつかむかの感覚を磨きたいと思います。

また、ドラマとは、「葛藤」と言われます。ジャーナリストは「葛藤」しながら報道しています。つまり、ジャーナリズムの中にドラマがあるということもできます。その「葛藤」も解き明かします。

③SNS の時代ですが、テレビは力を持ち続けています。今後のメディアの共生について考察します。

<活動内容>

山崎ゼミは、ドラマ、ドキュメンタリーを問わず、映像メディアに対して食欲に取り組んでいます。

<実態調査・見学調査・講演会>

対象演習：A・B・C

実施日：2023年6月12日(月)～2023年6月20日(火)

実施都市：ハンブルク（ドイツ）

実施場所：Metropolis・他

実施内容：2022年度に制作した短編ドラマ「お母さんのなみだ」がハンブルク日本映画祭にノミネートされたことを受け、約1週間ドイツ北部の都市・ハンブルクにて研修を敢行した。今回のレポートでは、映画祭をはじめ現地のメディアや日本領事館を取材した記録を中心に記述する。

①ハンブルク日本映画祭

ハンブルク日本映画祭は、ドイツ国内で最も歴史のある日本映画に特化した映画祭である。東京神田神保町映画祭と連携を行っており、日本の若手映画監督による作品が多く上映されていることが特徴である。上映作品には少人数チームで制作されたであろう作品が多く、ゼミ生にとっては今後の制作の参考になった。

映画祭を通して、様々な出会いを経験した。一つは映画祭に招待された日本人クリエイターとの交流である。上映作品の現場でのエピソードや普段の仕事の話を伺い、今後の将来を考える上で大きな刺激となった。

もう1つは現地で暮らすドイツ人や日本人ボランティアとの交流である。映画祭スタッフの方の紹介を通して、地元の散歩スポットを巡りながら学生同士の交流を行うことができ、当ゼミにこれまでなかった国際的なつながりを持つきっかけとなった。



②北ドイツ放送局 (NDR)

滞在 2 日目の 6 月 14 日、ハンブルクに拠点を置くドイツの地方公共放送局である「北ドイツ放送」を見学した。現地では放送局内のツアーと、当局ディレクターであるクラウス・シェーラー氏による解説講義が実施された。

NDR は日本でいう NHK のような公共放送だが、ドイツ国内にある 9 つの地方公共放送団体とテレビ・ラジオ放送の全国ネットを構成するドイツ公共放送連盟 (ADR) に加盟しているという、組織上での大きな違いがある。

スタジオ見学では、実際に番組撮影で使用するセットやカメラの操作を体験した。



クラウス・シェーラー氏の講義では、事前に視聴したドキュメンタリー番組『The Untold Story Of Otto Warmbier』と『Tuna on Tour』を元に、企画・撮影秘話や番組作りで重要視するポイントの解説を受けた。

この機会を受け、映像を通してジャーナリズムを学ぶ学生として意識するべきポイントを学ぶことができた。今年度はドラマだけではなく、ドキュメンタリーの領域に踏み込んだ撮影を行ったが、その上で大きな刺激となったと実感している。

③Zeit (新聞社) 見学

滞在 4 日目の 6 月 16 日、ドイツで最も広く読まれている新聞の一つである Die Zeit 社の見学を行い、記者の方にお話を伺う機会が設けられた。

ドイツ国内も、日本と同様に新聞業界の業績は下降傾向にあるが、当紙は業績と発行部数を伸ばし続けている。その理由や会社をあげて力を入れているポイントについて取材すると同時に、ジャーナリズムにおける日本と海外の違いについて考えるきっかけとなった。



④在ハンブルク日本国領事館 表敬訪問

Zeit 社見学と同日、在ハンブルク日本国領事館への表敬訪問を行った。映画祭は当領事館と社団法人との共催であるが、この担当者を務める副領事の方が中央大学OBだったことから、今回の表敬訪問が実現した。

この場ではハンブルクの特徴や日本との関係、領事館の仕事に関するプレゼンを受けた。質疑応答の時間もあり、ドイツや国際交流に対する理解を深めると同時に、ここでしか経験し得ない貴重な体験をすることができたと実感している。



成 果：海外のクリエイターやジャーナリストたちと直に接することで、国際的な視野でのジャーナリズムへの理解や制作活動に対して新たな刺激となる経験を数多く得ることができた。

対象演習：A・B・C

実 施 日：2023 年 7 月 15 日(土)

実施都市：東京都港区

実施場所：TBS AKASAKA BLITZ STUDIO

実施内容：7 月 15 日、TBS テレビで音楽特番「音楽の日」が生放送されるのに合わせ、東京・赤坂にある TBS 社屋の見学が敢行された。

当日は、朝の生放送番組「王様のブランチ」のスタジオと調整室の見学、「音楽の日」のリハーサル現場を見学した。これまでドラマの収録現場を見学したことはあったものの、1 分 1 秒の世界で勝負する生放送の現場を目の当たりにするのは初めての経験で、その緊張感に圧倒された。特に、「音楽の日」に関しては 8 時間の生放送であり、社内全体が忙しく動き回っているような印象を受けた。

成 果：ゼミ生の中には就職先としてテレビ業界を希望している学生も多く、今回は一般の就職活動では体感できないテレビ局の雰囲気を感じる貴重な機会となった。それと同時に、普段何気なく目にしているテレビの生放送の舞台裏を見学したことによって、番組を見る視点が少し変わるような経験を得ることができた。

対象演習：A・B・C

実施日：2023年8月25日(金)

実施場所：中央大学 後樂園キャンパス

実施内容：ゼミ活動の一環としてドラマ制作における出演俳優のオーディションを行った。応募してきた俳優にこちらの課題の演技をしてもらい、ゼミのメンバーでその演技をみて選考を行った。課題演技の他、この作品に対する理解と役を演じることへの思い出などの質疑応答も行った。

成果：娘役の俳優をこのオーディションで選定することができた。またオーディションの際には俳優の演技のどの部分に注目すべきかを学んだ。また、自分たちが応募者の演技に流されずにこういう演技をしてほしいという自分たちの要求をいかに曲げないかが重要かということも学ぶことができた。

対象演習：B・C

実施日：2023年9月9日(土)

実施都市：東京都港区

実施場所：ドラマ撮影会場

実施内容：ゼミ活動の一環としてドラマ制作のロケ撮影を行った。起立性調節障害を患ったゼミ生が企画し、山崎ゼミの3、4年生でロケハンや演者のオーディション、撮影準備をしていった。当日は港区のマンションでドラマの大半を占める家でのシーンを撮影した。

成果：ゼミ生同士やスタッフや演者の方々と意見を出し合いながら撮影を行うことで、ドラマの撮影過程を学ぶことができた。様々な撮影技法を活用することで、ゼミ生それぞれの中に多くの表現方法が蓄積されたため、今後の制作活動に活かされる経験となった。

対象演習：B・C

実施日：2023年9月11日(月)

実施都市：東京都北区

実施場所：名主の滝公園

実施内容：ゼミ活動の一環としてドラマ制作のロケ撮影を行った。起立性調節障害を患ったゼミ生が企画し、山崎ゼミの3、4年生でロケハンや演者のオーディション、撮影準備をしていった。当日は北区の土木道路課の許可を得た上でラストシーンを撮影した。

成果：本格的なドラマ制作を通して、ドラマ制作の進行や役割を学べただけではなく、映像表現としてメッセージを最大限伝えるための工夫をチーム一丸となって考えることができた。今後も制作をする上で、ノウハウなどが次世代に引き継がれたように思う。

対象演習：A・B

実施日：2023年9月17日(日)

実施都市：東京都多摩市

実施場所：ドラマ撮影会場

実施内容：ドラマ撮影

成果：撮影を通じて、演出やカメラワークなど授業でインプットしたことをアウトプットすることで、理論と実践の間の繋がりを深めることができ、ゼミ生が大きな経験を積んだ。スケジュールがタイトであったり、予期せぬアクシデントが発生したりする中で、柔軟に問題に対処するチームワークが見られた。ゼミ生全体が大きく成長する良い機会となった。

対象演習：B・C

実施日：2023年12月9日(土)～2023年12月16日(土)

実施都市：東京都八王子市・他

実施場所：八王子駅、原宿駅、渋谷駅、新宿駅、山下公園、二子玉川・他

実施内容：上記のさまざまな場所で「2023年はあなたにとってどんな年でしたか?」「2024年をどういう年にしたいですか?」という質問の街頭インタビューを行った。

成 果：出演に承諾する人を見つけるのに苦労したが、場所や年齢や性別によってかなり違う大衆のビビットな今の意見を聞くことができ、コミュニケーション能力も鍛えられた。また、それらの意見をドキュメントとして編集してまとめることで構成力も鍛えられた。